

大方中学校

「学びの土台を築く学校」
をめざして

校長 坂井 孝吏

◆大方中学校の底力

私は4年間、大方中学校を離れていましたが、再びこの学校に戻り勤務することになりました。この4月、しばらくぶりに大方中学校の生徒と会い、改めて感じたことがあります。それは、明るく気持ち良い挨拶ができること。授業では、皆がぐっと集中し先生の話に耳を傾けます。また、屈託のない素直さや、行事では上級生も下級生も一緒になって、おもいつきり楽しみます。このような姿を見ると、同時に、大方中学校生徒の底力のようなものを感じます。これらはどこからくるものなのでしょうか。

大方中学校では、「語先後礼」や「無言清掃」に取り組んでいます。「語先後礼」とは、「言葉を先に、お辞儀は後で」という意味です。対面する相手に礼を尽くす「あなたのことをちゃんと尊重

しています」という気持ち伝える行動です。「無言清掃」では、一人ひとりが自分の雑巾で無言で校舎を拭き上げます。お互いが気持ちよく過ごせるように、自分の役割を果たす責任感を養っています。また、大方中学校の体育館の壁には、「One For All, All For One」と掲げられています。「ひとりみんなのために、みんなはひとりのために」。これも互いを認め合い、大切にされる環境で、一人ひとりがのびのびと持ち味を発揮できる、そんな学校をめざして、先輩方の時代から守り続けてきたスローガンです。こうした、目には見えないけれど小さなことを生徒一人ひとりが、日々積み重ねてきたことが、大方中学校生徒の学びを支えているのだと思うのです。



◆授業で鍛える

大方中学校は、ノーチャイムの学校です。生徒たちは、自分で時間を意識し、休み時間と授業の切替がしつかりとできています。これも、大方中学校の良さのひとつだと思っています。時間になると教科委員が教室の前に立ち、声をかけて授業が始まります。先生たちは、生徒自らが「知りたい」「やってみよう」と思えるよう課題の提示を工夫しています。そうでなければ、「やらされる学習」になってしまいうからです。生徒自らが、なぜそうなるのか深く考えたり、多くの情報の中から



自分に必要なものを見極め整理したり、自分の考えをまとめ、友だちと意見を交わせ、関わり合いながら知識や技能を身に付けていきます。前にも述べましたが、授業中、生徒たちは集中し考えを巡らせています。そして、できたときの目はキラキラと輝いています。



◆地域に支えられて

大方中学校では、総合的な学習の時間を中心として、さまざまな体験を通じた探究活動に取り組んでいます。そこでは、保護者の皆さんをはじめ、地域の多くの方々

に生徒たちの学習を支えていただきます。授業で身に付けた知識や技能を発揮できる貴重な機会とも捉えており、感謝申し上げます。

1年生は「黒潮町ってどんな町？」をテーマに地域の魅力を発見し、それを広く発信したいと考えています。2年生は黒潮町に住む人々の安全・安心な暮らしのために自分たちにできることは何かを探しています。3年生は、これまでの学習の上に「持続可能な黒潮町」の実現に向けて、中学生に期待されることは何なのかを学んでいます。こうした探究活動を通して、生徒の主体性をのばし、意欲的に行動したり、他者より良く関わったりする態度を育てたいと考えています。こうして身に付けた力こそが、将来にわたり積極的に学び続ける基礎となると考えるからです。生徒一人ひとりが、将来のチャンスをつかみ取り、たくましく生き抜くための確かな力を育てられる学校をめざして、教職員一同一丸となり努めてまいります。今後も応援よろしく願います。